

# 新 秋 剣 連

発行  
**秋田県剣道連盟**  
 〒011-0945  
 秋田市土崎港西5丁目11-10  
 TEL 018-838-1783  
 FAX 018-845-3255  
<http://akitakenren.com/>

## 全日本剣道連盟



### ○顕彰

- ・ 剣道功労賞 目黒 大作 (めぐろ だいさく)
- ・ 剣道有功賞 粕山 昇 (もみやま のぼる)
- ・ 少年剣道教育奨励賞 鹿泉 館 (ろくせんかん)

### ○称号、段位合格

- ・ 範士 鎌田 耕平 (かまだ こうへい)
- ・ 八段 小笠原 聡 (おがさわら さとる)
- ・ 八段 原田 智徳 (はらた ともりの)



## 昭和四十一年四月秋田高校入学

秋田県剣道連盟 会長 小松 誠



大館から来た私にとつて「秋高」を「しゅうこう」と呼ぶのも、学年毎に「一年ツコ」「二年ツコ」と呼ぶ

のも知らなかった。初めて剣道場に入る時、ズックのまま入ろうとして先輩に叱られた。このように何から何まで初心者で別世界に来た感じだった。

大館を出るとき、宮崎広治先生に「秋田に行けば色々苦しいこともあるが、ウテ(剣道)だけは負けるなよ。」と言われたことが励みになった。

監督の岩谷文雄先生に初めて懸かった時は、本当に岩にぶつかっている気がした。先生の稽古方法は短時間に集中して最後は打ち込み、切り返しであった。一年当時は攻めが分からず早く息が上がった。その間三・四分と記憶している。

学年が上がるにつれ地稽古の時間が長くなったが、最後はやはり打ち込み・切り返しであった。この最後の切り返しが一番苦しかった。

この年、渡辺忠先輩が東京教育大を卒業し講師として着任していた。若いし体も大きいし二人の先生に懸かるのは本当に大変だった。

全体の練習としては、切り返し(五分)・打ち込み(一分五分)・技練(十五分)先懸け【せんかけ】(二十五分)・地稽古

(四十分)・切り返しで終了。放課後約一時間四十分だが、それぞれ短時間集中の連続であった。尚、先生達二人は地稽古の前から来て稽古を始めていたし、OBが来ても一時間四十分になると終了した。

先懸け【せんかけ】について  
 基本的には①真ん中を割ってコテ・メン↓体当たり↓ひき胴の反復練習。  
 ②はひき胴に対し元立ちが間合いを詰めて、どちらかが一本決めるまで。  
 ③この段階は、お互いの攻め合いの中から混戦状態も含め一本決めるまで。

一見簡単なようだが体当たりの後の技の出し方、その後の技の出し方が呼吸と攻めの関係でとても苦しく難しかった。この練習で少し我慢が身についたかもしれない。

先生の攻めの説明は独特のものであった。「竹刀の先から五本の指が出て相手の剣先を封じるのだ。」と繰り返した。先生は前任校の金足農業高校で剣道はもとより、野球・ラグビー(全国大会出場)・駅伝・卓球等の指導をしていた。このような他競技の指導経験から「五本の指」の表現が出てきたと思われる。いかにも先生らしい表現であった。因みに元秋剣連会長の笠喜裕先生は金足農業高校剣道部の教え子であった。

昭和四十年からの合い言葉「為せば成る」の精神で全国制覇を目指す二年目であった。

剣道功労賞



目黒 大作

剣道範士八段  
一九四五年 男鹿市生 八一歳  
秋田県剣道連盟 前会長、相談役  
全日本剣道連盟 元常任理事、元審議員

一九五二年(昭和二十七年)、戦後剣道がスポーツとして復活、同年より剣道を習う。地元中学卒業、秋田高校に入學と共に剣道を本格的に始める。

一九六八年東京教育大学卒業後、秋田商業高校を皮切りに、秋田西高、秋田南高、秋田高校等県内高校を歴任、多くの高校生に剣道指導を行った。

自身も各種大会にも出場し、特に国民体育大会には三三回出場し準優勝も収めている。

また、一九九八年から全国高体連剣道専門部副部長を務め学校剣道の普及にも尽力した。二〇〇五年五城目高校校長を最後に退職。秋田県剣道連盟では理事長、副会長、二〇一六年から会長、現在は相談役として後進の指導を行っている。

全日本剣道連盟では、二〇〇一年より二〇一二年まで常任理事に就任し社会体育指導委員会委員長を務め、全国で講習会を実施するなど社会体育指導員講習会の基盤を構築した。

剣道有功章



泉流剣正塾 塾長 初山 昇

先達のことば

先達の発する言葉は、含蓄に富む一方、理解に労することがしばしばあります。それは、言葉を受け止める者が、先達の域に達していないからです。十年、二十年の修練の後にはじめて本質を知ることができるとも多々あります。例えば、「両手両足があるのだから両手両足を使えばいい」という教えがあります。普通の生活上では「あたり前のこと」として聞き流されてしまふこととです。しかし、剣道の修行上では、非常に大事なことです。技には、左手(握り)を支点(艇子の回転運動の中心となる支えの点の意)に右手(手・腕のすべてを使う)で打つ技があり、右手を支点に左手で打つ技があり、右手と左手の中間(柄の中間の意)を支点に左右の手を使い打つ技があります。それぞれ一つではありません。「無限

に」と言えるくらいあります。一つの技を稽古で使えるようになるには、一〜二年、あるいは、それ以上の修練を要すると言えます。足の使い方も同じです。教科書的には、「送り足」「継ぎ足」「歩み足」があるとされています。しかし、その「使い方」、「使い分け」が、広く理解されるほどに指導されているとは思えません。

化する必要があります。師が修行された「一刀流中西派高野道場(東京修道学院の意)」には、「三角矩(のり)」の構えがあります。これが、師又は師の師が会得した「普遍的な構え」と言えます。流派は違いますが、中山博道先生が書かれていた「表は竹刀で守り、裏は心で守る」ことができる構えと言えます。

例えば、「構えに構えあり、構えに構えなし」という教えがあります。「二律背反」する表現です。後段の「構えに構えなし」とは、人は皆、心も体も生育にも違いがあり、それぞれには、それぞれに適した構えがある。一つの型を押し付けることに對する戒めが込められています。前段は、個性ある構えを尊重すると同時に「構えには普遍的なものがある」ということを示唆しています。さらには、「構えの変化」があります。「上段の構え」に対しては、「平正眼の構え」で対応することは知られています。しかし、「中段の構え」に対して「中段の構えの変化」で対応することは、あまり意識されていないように見受けられます。特に、身長差のある場合には「構えで対等になる」よう変

例えば、「木戸が閉まっていたなら開けて入ればいい」と言われます。「木戸」を「剣先」に置き替えれば、本質を理解することができるはずで、剣先を外す方法は、多様です。「抑え」「張り」「渡り」「払い」「切り落とし」「突き」(※突きの部位を突く突きにあらず)など、どんな構えに、どんな剣(道)に、どの技で応じればいいのか、技の多様性が求められる理由は、ここにありまふ。

師は、剣道を共に学ぶということば「やって見せることだ」とも言われました。重い言葉です。歩みを止めれば歩けなくなる、稽古を止めれば技は切れを失う、世阿弥ではありませんが、「日々稽古、稽古稽古」、これが、師の、先達の教えに込められていることだろうと思



います。いずれ、先達の剣道は、その歴史的使命を終えるだろうと思います。それまでは、北斎に倣い、百十歳までの「剣道目標」を掲げ、日々精進したいものです。

※ 師とは、一刀流中西派九段、全剣連範士 泉通四郎先生のことです。

もみやま のぼる・一九四〇年秋田市民 秋田商業高校入学剣道を始める

加藤正治先生 法政大学丸山義一先生師事

一九六三年法政大学卒業後県立高校教師を務め 二〇〇一年退職

剣正塾塾長 秋田市剣道連盟顧問 「泉通四郎剣道日記」「教育剣道の研究」等著書多数

### 少年剣道教育奨励賞



鹿泉館 三國 佳紀

この度、本誌において鹿泉館の紹介をさせていただけることを大変光栄に思います。本年は鹿泉館を継承して十年の節目となりますので、これまでの歩みを振り返りながらご紹介いたします。

鹿泉館は、故長崎宏紀先生が恩師・故泉通四郎先生の教えを受け、「正しい剣道を伝え、剣道を通じて青少年の育成に貢献したい」との思いから昭和六十年、北秋田市(旧鷹巣町)に建設された道場です。道場名の由来は、「鹿は昔、神に仕えた神聖な動物であり、くよくよせず志を大きく持つことの意味。泉は泉先生の一字であるとともに、泉がこんこんと湧き、大きな湖になるように。すなわち志を大きく持つ人間を育てる」との考えで「鹿泉館」と命名したと伺っております。私も幼少期より入門し、長崎先生をはじめ地域の先生方にご指導いただきました。先生のご逝去後、道場は解体されましたが、地域の先生方が武道館で稽古を続け、伝統を守ってくださいました。

大学卒業後、地元に戻った私は、母校である鷹巣中学校剣道部の外部

コーチとして指導に携わりました。生徒たちと稽古する中でやりがいを感じつつも、幼少年の剣道人口が少なく、多くの生徒が中学卒業と同時に剣



道を離れてしまう現実にも直面しました。そんな折、生徒の弟妹たちが「自分たちも剣道をやってみたい」と声をあげたことが、現在の鹿泉館の再出発のきっかけとなりました。新聞紙を丸めた棒で稽古を始め、やがて近隣児童館から譲っていただいた剣道具を付けて大会にも出場できるようになり、かつての道場名「鹿泉館」を継承させていただくことになりました。

継承にあたり理念を「正しく・楽しく・仲良く」とし、目的を「剣道の大好きな子を育てる」と掲げました。これは、故長崎先生の「正しい剣道の普及」という志を受け継ぎつつ、剣道の楽しさや礼節を通して子どもたちの心を育てるという思いを込めたものです。

この十年間、大会での華々しい成績こそ多くはありませんが、入門者は毎年増え、現在は小中学生二十五名が在籍しています。OBの多くも剣道を続けており、地域の支えの中で着実に歩みを重ねてきました。指導に協力くださる先生方、他道場の皆様、そして何より道場の方針を理解し、子どもたちを温かく支えてくださるご家族に心より感謝申し上げます。

このたび秋田県剣道連盟より幼年指導奨励賞を、全日本剣道連盟より少年剣道教育奨励賞をいただけただけことは、皆様のお力添えの賜物です。心から感謝申し上げます。

結びになりますが、本誌を通じて鹿泉館のことを懐かしく思う先生や、関係者の方も多いかと思えます。故長崎先生が建てられた道場そのものはありませんが、その志は確かに受け継がれています。これからも地域の子どもたちが剣道を通じて成長できるよう、微力ながら努めてまいります。今後とも温かく見守っていただければ幸いです。

剣道範士を受称して



剣道範士八段  
鎌田 耕平

この度、五月の京都における範士審査に於いて、範士号を拝受いたしました。多くの先生方の中から受称出来ましたのも、少なからず剣道界に貢献してきた事が認められた事。加えて年功によるものと思っております。同時に、今まで以上に剣道界の発展に尽くし、更には幼少年の育成に力を注ぎなさい、と言う大きな課題と責任を与えられ、身が引き締まる思いであります。

剣道は独りではなかなか叶わず、向かい合う相手がいて初めて成り立つ競技です。そう考えますと、剣道の技術はもろろん、人としての成長はたくさん先生の先生方、たくさんさんの剣友、たくさんさんの門下生のお陰で今があり、今回の受称に繋がったものと思いい、改めて感謝している次第です。

小学三年生から剣道を始め、今日まで多くの高名で素晴らしい先生からご指導を頂いたことが私の剣道人生において、大きな宝となっております。

感謝の気持ちを込め、お名前を挙げさせて頂きたいと思ひます。(小学校から現在まで。順不同にて失礼します)

渡邊八郎教士七段、奥山京助範士八段、小笠原一郎範士八段、加藤正治範士八段、内山真範士八段、阿部忍範士八段、志澤邦夫教士七段、倉澤照彦範士九段、小澤丘範士九段、山内富雄範士八段、鶴見岩夫範士八段、中野洋治教士七段、加藤浩二範士八段など、錚々たる先生にご指導を頂きました。本当に感謝しかありません。

話は変わりますが、私は八段位を指したことにより、剣道の癖、悪癖が無くなり、自然体の剣道に少しずつ近づいたように思っています。審査に落ちる度に自分の剣道を見つめ直し、躊躇からやり直しましたので、受かりたい！と言う気持ちより、自分の剣道を見つめ直す機会として捉えていましたので焦りはありませんでした。そんなわけですから、八段を拝受した時は見つめ直してきました。私の剣道はここで一区切りだったのです。松下幸之助氏の小冊子PHPに「無駄と無為」と言う題で次のような事が書かれていました。「人は真剣に内省すれば、いくらでも学びを手にすることができます

」何度も失敗し、長い年月を費やしてきましたが、私にとり、貴重な学びの時だったと思ひます。そんな思いでしたから「範士になりたい、なろう」とは全く思っておりませんでした。前述の先生方に比べたら天と地の差があると思っておりますし、八段と違い今度は周りの方が認めてくれるかどうか、だからです。受称の知らせを聞いた時、両方の肩に責任と言う重りがどつしりと被さってくるのを感じましたし、その責任をどのように果たさなければいけないか等、全く見当もつきませんでした。ただ、これからは立つ位置、座る位置、一挙手一足を見られる立場になるに違いありません。これからは教えを頂いた先生方に少しでも近づけるように、そして剣道における最高峰の地位に恥じる事が無いよう今まで以上に精進する決意しております。

終わりにあたり、推薦をして下さいました秋田県剣道連盟の小松誠会長、そして私の所属母体である秋田県剣道場連盟の小松晃会長を始め剣友の皆様、そして道場の門下生など全ての仲間から感謝を申し上げたいと思ひます。ありがとうございます。これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

八段合格



小笠原 聡

合川中学校で手ほどきを受けてこれまで、多くの方々の励ましにより剣道が続けることができました。大館南高校の恩師大高尚士先生は、心身共に力のない私に真剣に向き合っており、厳しい稽古で鍛えまた姿勢を正し、努力すれば強くなれるという自信をつけてくださいました。しかし大学入学後、私は試合に出たい一心で、勝つことだけを目標にしてしまいました。社会人となった時、佐々木寛先生はそんな私の剣道を徹底的に打ち負かし、基本の大切さを説いて、進むべき道を方向づけてくださいました。お二人の先生方との出会いがあったからこそ八段合格です。今回二度目となる二次審査では、昨年からの取り組みで、攻め返して真つ直ぐに打つ稽古が功を奏し、迷いのない立会いができました。が、まさか合格するとは…。剣友や地元の方々から、驚きと喜びのメールが届きました。

これからの始まりです。心を新たに真の八段へ向けて精進します。そして、生涯鍛錬できる「剣道の良さ」を伝えていくこと、それが自分を育ててくれた『剣道』への恩返しだと考えています。

おがさわら さとる 一九五八年旧合川町生合川中学校剣道を始める。大館南高校、一九八一年駒澤大学卒業後、福祉関係事業に従事。二〇一九年秋田県社会福祉協議会退職、大館・北秋田剣道連盟会長



原田 智徳

令和7年11月21日、剣道八段審査において合格させていただきました。

これもひとえに、これまでお世話になった先生方、剣友の皆様、そして支えてくれた家族のおかげと、こころより感謝申し上げます。

この審査に向けた取組みとして、私は毎週木曜日の県剣道連盟定期稽古会にできる限り参加することにしていました。

その中で「呼吸法」に関する指導、「左拳の納め方」に関する指摘をいただきました。自分なりに試行錯誤してみたところ、ある日、左足の「ひかがみの張り」、「湧泉の加重等」について、自分の構えがこれまでにはない「しつくりくる感覚」を掴むことができました。それ以降は、自分としては「溜め」、「我慢」のほか「退かない」剣道につながったと感じています。

自分自身まだまだ絶対的に力不足であることから、今回の審査結果に慢心することなく、努力精進していく所存ですので、今後も引き続きご指導のほど、よろしくお願ひします。

はらた ともひり 一九七八年秋田県生 小学一年 昭和町剣道スポーツ少年団より剣道を始める。羽城中学校 秋田南高校、山形大学。大学卒業後二〇〇一年秋田県警察 拜命、剣道特別訓練員、警察本部交通部所属

東北総合スポーツ大会 総合第一位

少年男子優勝

監督 杉山 喜幸

令和七年八月二十三日(土)に大崎市古川総合体育館において開催された、東北総合スポーツ大会剣道競技において二年ぶりの優勝を果たすことができました。

七月四日の最終選考において選手が決定し、七月十日に最初の合同練習を開催しました。今年はいんターハイが例年より遅い開催で各校での練習が中心となりましたが、11日からの京都遠征でチームの結束が強いものとなり、良い雰囲気で大大会に臨むことができました。大会は各県とも精鋭で強敵でしたが、特に、この世代の有力選手を有する山形と6月の東北選手権で個人ベスト8中、7人を占めた宮城が最大の難関と考えていました。選手は「各自の役割を果たすこと」、「試合内容で勝つてつなぐ」を合い言葉に各試合に臨みました。落ち着いた試合ぶりで行った力を存分に発揮し、危ない試合を展開しました。日ごろからの各校の先生方の御指

導と秋田県剣道連盟の御支援、御指導のおかげで全勝優勝という最高の結果を残すことができました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。報告とさせていただきます。

試合結果 (五勝)

一回戦 三〇 山形 二回戦 一本一 責森  
三回戦 二〇 宮城 四回戦 二〇 福島  
五回戦 四一 岩手

監督 杉山 喜幸(秋田西)  
コーチ 鷲谷 翼(明桜)

選手 大将 佐藤 颯亮(明桜)  
副将 田上 朝陽(秋田南)  
中堅 八木 銀太(秋田南)  
次鋒 三浦 歩(秋田商)  
先鋒 長谷川士貴(秋田商)  
補員 鎌田 昊(秋田南)



成年女子二連覇

監督 秋元かおり



令和7年の東北総合スポーツ大会は宮城県大崎市古川総合体育館で開催されました。成年女子の結果は昨年引き続き優勝、そして3年連続となる本戦出場という結果を残すことができました。

成年女子の試合は三人制の六県総当たりです。一試合一試合の内容が最後の結果に物凄く影響してきます。毎年のことではありますが、まず初戦を勝ち切ったあとの試合に繋がりたいと思っていました。初戦の相手は福島。先鋒佐藤の一本勝ちを守り切り1-0で勝ち。二試合目は山形。先鋒佐藤が一本負け、中堅青山は一本先取しましたが返されて引き分け。山形に1-1の本数勝ち。この試合の加藤の一本目の逆胴は本当に見事でした。面が得意な加藤が思い切った逆胴に行ったことが功を奏しました。三試合目は来年の国スポ開催県の責森。先鋒・中堅が引き分けで大将戦。加藤が一本勝ち、1-0で勝ち。四試合目は岩手。先鋒佐藤は一本先取されましたが二本返しリードして中堅へ。青山は引き分けで大将に繋がりました。大将加藤は一本勝ち、2-0で勝ち。五試合目。ここまで全勝でしたので、最後まで勝って全勝優勝を！と全員で宮城



三人それぞれが自分の仕事をした結果の優勝だったと思います。今後も来年に向けて女子同士で連携を図りながら、三連覇を目指し精進していきたいと思いません。



との試合に臨みました。先鋒佐藤は一本先取しましたが、一本返されて引き分け。中堅青山も引き分け。大将加藤がきつちり二本勝ち。一―〇で勝ちました。この大会加藤は全試合を通して四勝一分、他県の大將を圧倒しました。

佐藤は終始攻めの剣道で相手に向かっていき、青山は佐藤の試合の結果を受け、待ちにならないように、そして確実に加藤に繋ぐ、加藤は冷静に、まず一本を取りに行き勝ちに繋げる。

第59回全日本女子学生  
剣道選手権大会を終えて

準優勝



山形大学3年  
佐藤 悠月

この度、全日本女子学生剣道選手権大会で準優勝という成績を収めることができ、これまでご指導いただいた方々に心から感謝申し上げます。

これまで本大会では、大学一年次にはベスト八、二年次には三回戦敗退と、悔しさも経験しましたが、この三年間の積み重ねが今回の結果に繋がったものと感じています。

大学の稽古は、限られた環境の中でいかに集中し、自身の濃い稽古をするのかを常に意識してきました。また、剣道具を着けていない時に、自身と深く向き合うことを大切にすることが成長に繋がった要因であったように思えます。一人で道場に足を運び、鏡に向かって素振りをしたり、過去の試合の映像を見返したり、自身の現状や目指す姿、心の内面などをただひたすら書き出したりするなど、これまでの生活や剣道を振り返り、自分を俯瞰的に見つめ直すことで、漠然としていた課題が明確となり、何を鍛えるべきかが見えてきました。

特に、稽古の中で迷いが生じたときには、幼い頃から大切にしてきた「基本に忠実な剣道」という初心を思い出すようにしました。秋田に帰省して、小中高時代の恩師と竹刀を交えるたびに、この初心に立ち返ることができ、それまでの迷いや悩みが晴れていくのを感じます。私にとって秋田は、剣道の原点であり、初心を思い出させてくれる大切な場所です。

今回の成績は、決して私一人の力で成し遂げられたものではありません。山形大学や地元秋田の先生方や仲間、そしていつも温かく見守ってくれた家族の存在が私の大きな支えでした。苦しい時も諦めずに前を向くことができたのは、支えてくださった全ての方々に恩返しをしたいという強い思いを持つことができたからであり、感謝の念に堪えません。

また、このたびは、自分自身がまだまだ未熟であることを痛感させられたと同時に、生涯を通じて、誠実に、ひたむきに剣道に向き合っていたいと改めて感じる事ができた良い機会となりました。いつの日か、応援してくださいと残る皆様、日々の稽古に励んでまいります。

今後、秋田県剣道連盟の皆様のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

第59回全日本官公庁剣道大会

準優勝



秋田県庁  
渡邊 柚

令和7年10月25日に東京武道館において、全日本官公庁剣道大会が開催され、個人準優勝という成績を収めることができました。出場に際して、日頃より様々な形でご指導、ご支援いただいている皆様に心より感謝を申し上げます。

この大会は、全国各地の官公庁機関（警察機関、刑務所、拘留所、自衛隊、消防署、各省庁等）に勤務する方々が出場し、普段から仕事の一環で剣道に関わることが多い選手ばかりです。私は秋田県庁剣道部の一員として、今大会に出場させていただきました。剣道が仕事と直結しない私にとっては、会場にいる選手から今大会にかける意気込みや練習量の差が感じられるほど緊張感のある大会です。6年前にも同大会で個人3位に入賞いたしました。その翌年からは新型コロナウィルスの影響で、数年ほど開催中止となった時期もありました。それでも、また



こうして良い成績を残すことができ  
たのは、日頃から支えてくださる皆様  
や、いつも一緒に稽古を重ねている仲  
間の存在があったからこそだと感じ  
ています。なにより、自分以上に私の  
頑張りを信じてくれる方々がいるこ  
と、頑張りを喜んでくれる方々がいる  
ことが本当に幸せなことだと今大会  
を通して実感しました。その温かい後  
押しや、支えの大きさが私の励みとな  
り、結果にもつながったと思います。  
社会人となつてからも剣道を続け  
られる場所があること、稽古ができる  
仲間がいることに感謝しながら、少  
しでも秋田県の女子剣道に貢献してい  
きたいと思いますので、今後もご指導  
をよろしくお願いいたします。

第59回  
全国道場少年剣道大会

第三位



勝平道場

児玉 進也

令和七年七月二十九日に日本武道館において、「第59回全国道場少年剣道大会」が開催されました。全国から集まった七三二チームの少年剣士たちが「優勝」を目指して戦います。もちろん、我が勝平道場Aチームも優勝の一択を胸に戦いに挑みました。

私にとって今回の大会は三度目で、我が子と一緒に出られる最後の挑戦です。コート準々決勝は、東松館道場Aと戦いました。先鋒鷲谷の小手を守り切り、勝ちました。名門道場に勝った勢いそのまま勝ち進むかと思いきや、次の準決勝の福岡県大野北剣道スポーツ少年団との戦いは、一進一退の攻防が続く、大将戦を終えた時点で1-1の代表決定戦となりました。代表で勝てるのは鷲谷しかいないと思いましたが、後は、子どもを信じるのみです。延長戦が続く長い時間のプレッシャーの中、切れのある得意技（小手）を決め、素晴らしい試合展開をしてくれました。決勝トーナメントまで来ると、強豪ばかりなので、子どもたちには一本勝負のつもりでいくよ

うに話しました。やはり、一本の差で勝負は決まり、一戦一戦厳しい戦いばかりでしたが、準決勝まで勝ち上がることができました。小曽根剣友会との準決勝では、先鋒が面を先取した後、面を返されて勝負となり、得意の小手を決めて勝ちましたが、中堅で二本返され、1-1の本数負けの状態で大將戦になりました。果敢に一本取るうと挑みましたが、時間となり、決勝に勝ち上がることはできませんでした。

全国の舞台で戦い抜くことは決して簡単なことではありません。日々の練習の積み重ねや努力を続け、自分に負けない強い気持ちを持ち、一つひとつの錬成会や大会での経験があつたからこそ、私たちはこの場に立つことができたのです。厳しい稽古の中でも仲間同士で励まし合い、苦しい時には支え合いながら乗り越え、仲間を信じ、最後まで優勝に向かつて諦めなかつた強い気持ちが結実したものではないでしょうか。

第三位という成績は誇れるものですが、さらに上を目指すためには、課題や改善点を見つめ直して、今後の練習に取り組んでいきたいと思えます。そして、令和8年3月に行われる水戸の全国大会優勝を目標に子どもたちと共に、これからも歩んでいきたいと思えます。

最後になりますが、羽生先生を始め、日々の練習で指導してくださる先

生方、共に努力してきた道場の仲間たち、子どもたちを支え、協力してくださる保護者の皆さま、そしてご指導・ご協力をいただいた地域や関係者の方々に、心より感謝申し上げます。そして、全国優勝という目標達成まで、あと少しお付き合い願えれば幸いです。

- コート
- 一回戦 二-〇 乙島道心館道場
- 二回戦 二-〇 川口市南剣友会
- 準々決勝 一-〇 東松館道場A
- 準決勝 一-一 大野北剣道スポーツ少年団  
代表戦勝利
- 決勝 二-〇 正栄館磯部道場A
- 決勝トーナメント
- 一回戦 一-〇 今宿青木剣友会
- 準々決勝 一-〇 都岡剣友会
- 準決勝 一-一 小曽根剣友会  
本数負け





勝平道場

鷲谷

魁

コート優勝を目標に、日本武道館の電光掲示板に「勝平」の名前が出るように稽古をがんばりました。当日は自分のよいところを出そうと、集中して試合ができました。組み合わせが発表されてから意識してきた東松館道場（東京）に勝ち、チームは勢いに乗りました。あおい（中堅）と工（大将）と二人で力を合わせ、勝ち上がることができうれしかったです。

準決勝の小曾根（大阪）戦、大将戦が終わったとき、なんとも言えない感情でした。全国三位の誇らしい気持ち、自分の力が通用したほっとした気持ち、優勝できなかった悔しい気持ち、先生方や家族への感謝の気持ち、そして亡くなった母にも見せたかった残念な気持ち……。いろいろな思いをもって、また稽古したいと思います。



勝平道場

古室 あおい

私は、第五十九回全国道場少年剣道大会で「全国三位」という結果に自分でも少し驚きました。もちろん目標は「優勝」だったし、最後までそのつもり

で全力を尽くしました。

全国の強者のいるチームが集まる中でこの順位を取れたことは、大きな自信につながり試合が終わった瞬間大きな達成感がありました。日々の練習の通り出来ず思うように結果が出なかった時期、一緒に乗り越えてきた仲間、いつも支えてくれた家族の存在があつた瞬間にすべて報われたような気がしました。

ただ、「三位」という結果には悔しさもあります。あと一歩、あと少しだけたと思うと「自分ほもつと出来たはず」という思いも消えませんが、これは次のモチベーションにも繋がっています。

全国三位という結果を誇りに思いつつ、ここでゴールではなく、次は全国優勝を目指して、次の大会に向けて一歩ずつ進化出来るようにしていきたいと思っています。

一本の大切さ



勝平道場

児玉 工

三度目の夏の全国大会、最高の仲間たちとともに戦いに挑みました。もちろん、目標は「優勝」です。そのために、自主練やスポーツの練習を休まず頑張りました。

大会では、全ての試合が厳しい戦いだったけれど、コート準決勝の試合が一番大変でした。一本負けのまま大将戦になつたので、大将の僕が取り返さないと負けです。相手の前の試合を見て、「相小手面なら勝てる」と思っていた技が決まり、代決までつなぐことができたので、大将の役目を果たせたと思いました。決勝トーナメント準決勝で負けて三位で終わってしまったけれど、一本の大切さがわかった大会でした。これからもその一本を取るために日々の練習を大切にして頑張っていきます。

令和7年度 全国高等学校定時制通信制体育大会剣道大会



明徳館高等学校

佐藤 航貴

男子個人 第三位

今年の春、私は秋田高校から明徳館

高校通信制課程に転入し、この学校を選んだ理由の一つでもあった剣道部に入部した。通信制ということもあり、高校では定期的な稽古がないため、休日に秋田高校剣道部の稽古に参加させてもらったり、剣道連盟の木曜

稽古で鍛えてもらったりした。そのおかげで、目標としていた全国大会の個人戦と団体戦へ出場することができ、剣を交えてくれた仲間や先生たち、支えてくれた家族には感謝の思いでいっぱいである。

体調不良が続いていたこともあり剣道での遠征は久しぶりだったため多少の緊張を抱えながら東京入りしたが、試合会場である日本武道館に足を踏み入れると、なんとも言えない高揚感が湧き上がった。

大会は全日制の高校総体のように参加人数は多くなく、華々しさもないが、全国大会だけあって出場している選手は手強い相手が多かった。三回戦までは身体が動き、いい攻めができていたが、東京の猛暑と体力不足から得意の面を打つ手が出なくなり、最後は一気に失速してしまった。結果は三位だったが自分の剣道を出し切れなかったことは非常に心残りであった。次回は面以外の技も出せるよう、また万全の態勢で臨めるようこれから稽古を重ねていきたい。



女子個人 第三位

明德館高等学校

石川 優美

私は去年の四月に明德館高校通信制に転入学しました。去年は部活動には所属しておらず、今年に入ってから一度離れた剣道をまた始めるかどうか全県大会ギリギリまで悩んでいましたが、剣道部に顔見知りの後輩が入ってきたことや親の勧めもあり、入部を決めました。八月の全国大会出場が決まってからは、地元で中学生や地元の先輩方に稽古をつけてもらい練習を重ねました。

迎えた大会当日。久しぶりに剣道の試合が出来ることに胸が高鳴っていましたが、観客席で応援してくれている両親の楽しそうな表情を見ると自然と緊張せず、落ち着いて試合に望むことができました。優勝を目指していたので悔しい結果に終わりましたが、結果よりも一度離れた剣道に戻ってこられたことや頑張る姿を両親に見せたことへの喜びが大きかったです。

私が再び剣道を頑張れたのは、いつも支えてくれて、私の選んだ道を応援してくれる家族や友人のおかげなので、感謝の気持ちを忘れずにこれからも精進していきたいです。



男子個人

二回戦

メメ 難波 (山口・聖光高)

三回戦

メメ 上原 (千葉・星槎国際高)

四回戦

メメ 西畑 (大阪・向陽台高)

準々決勝

メ 前村 (鹿児島・開陽高)

準決勝

メ コト平岡 (茨城・水戸平成学園高)

女子個人

一回戦

メ 中村 (山口・山口松風館高)

二回戦

メ ユ宮島 (埼玉・大宮中央高)

三回戦

メ 高橋 (三重・北星高)

準々決勝

メ 橋浦 (東京世田谷泉高)

準決勝

メ ドメ長町 (宮崎・勇志国際高校宮崎)

道場紹介



湯沢東正剣会

小原 光晴

湯沢東正剣会の歴史はとても長く、その前身は湯沢東小学校剣道部にあります。湯沢市は剣道の盛んな地域で、特に昭和三十六年の一回目の秋田国体の剣道競技会場になった事を契機に、剣道人口が増えて行った様になります。自分も昭和四十五年、小学四年生の時に初めて剣道部に入部しました。その当時、湯沢市少年剣道後援会なる組織があり、指導者・保護者・地域の人たちが熱くバックアップしてくれておりました。湯城(とうじょう)と言うチーム名で全県、東北大会など、当時も各地で活躍しておりました。卒業生には、昭和六十一年の全日本剣道選手権で優勝し、剣道日本一に輝いた、大阪府警の岩堀透先生がいらっしやいます。また、現在も多くの先輩方が全国各地ですばらしい活躍をし

ておられます。

道場名は、平成十二年に「湯沢東正剣会」とし、現在に至っております。部員は湯沢東小学校の児童で構成され、毎週火曜・水曜・金曜の放課後から午後七時まで稽古に汗を流しています。今年度は六年生四人、五年生二人、二年生二人と少ない人数ではありますが、歴史と伝統を繋ぐべく日々稽古に励んでおります。指導者は、道場主の私、山脇清子教士七段、石川俊春六段、岩井川徳康です。「下駄を揃えて返事良く」の道場訓のもと、子供たちには礼節と基本の徹底を柱に指導を行っております。また私たち指導者は、剣道の継続、つまり中学校・高校でも剣道を続けてもらう事を念頭に指導にあたらせてもらっています。少子化に伴い、剣道人口の減少と厳しい現状にありますが、剣道体験教室の開催等を通じて、裾野である小学生の剣士増加を目指し、指導者・保護者・部員一丸となって努めて行きたいと思っております。

在京秋田剣友会だより

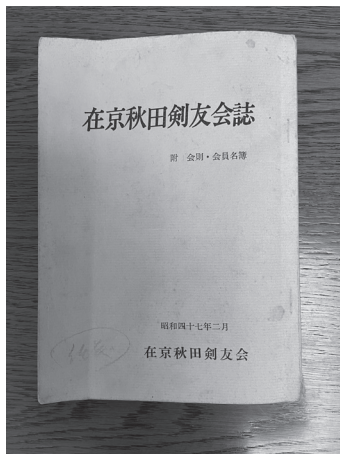


在京秋田剣友会  
会長 八木沢 誠

二〇二四年十一月三日、毎年恒例の「在京秋田剣友会総会・全日本選手権選手慰労会」が始まる矢先、高校の大先輩である佐藤聰明先輩(当時会長)から呼ばれ、「来年からあなたに会長をお願いする」と言われ、断ることも

できずに二〇二五年四月から在京秋田剣友会会長を拝命することとなりました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

二〇〇九年に事務局長をお引き受けする際、佐藤先輩から昭和四十七年二月発行の「在京秋田剣友会誌」(写真)をお預かりしたものの、そのまま



他の書類としまい込んでしまっていたため、これまでの一六年間はその内容をじっくりと読む機会がありませんでした。この度の会長就任に際し、会の歴史を今一度理解しておく必要があると読み始め、改めてこの会の重要性と先輩の皆様の熱い思いを知ることとなりました。

在京秋田剣友会初代会長は衆議院議員の佐々木義武先生(当時は秋田県剣道連盟会長)に始まり、石田茂夫先生、加賀谷誠一先生、長尾英宏先生、佐藤聰明先生と受け継がれ、私が第六代目の会長となります。発会当初は「郷土親善稽古訪問」などが企画され、会員・学生会員七名を含む総勢二一名が秋田市、大館市を訪問して剣道交流をされるなど、秋田県剣道連盟とは密に繋がっていたことが窺えます。迎えた秋田県剣道連盟からも岩谷文雄先生、内山真先生、加藤正治先生などからの寄稿文が掲載されており、「剣道王国秋田」たる所以を改めて痛感させられた次第です。

近年は「選手慰労会」が主たる活動となつてしまい、参加者も年々減少傾向にありましたが、昨年度、法政大学の高橋京太郎君(本年度法政大学主将)に頼んで学生に声をかけたところ、二四名もの学生が参加してくれ

たため、これまでに盛会裏に終えることができませんでした。本年度はインフルエンザの流行や、全日本女子学生・学生優勝大会前ということもあり、学生参加者が一五名と数をやや減らしてしまいました。その分を新たな一般会員を迎えられたことにより活気のある慰労会となり胸を撫で下ろしているところでもあります。

今後は「会員相互の親睦と連繋をはかり、秋田県剣道連盟と連絡を保ちながら、斯道の発展、普及および後輩を激励することを目的とする」会の「目的」に立ち返り、在京秋田剣友会の更なる充実に努めたいと思います。



段位・称号・大会報告

剣道(六段・七段・八段・称号)

六段(一九名)

- 上野貴之(秋田市) 田口育子(横手市)
- 小助川洋道(秋田市) 河村祐太郎(湯沢雄勝)
- 新泉雄貴(秋田市) 石田景亮(秋田市)
- 高久徹(湯沢雄勝) 小澤進也(秋田市)
- 児玉進也(秋田市) 神馬宏悦(秋田市)
- 鷹嶋弥(由本に) 齋藤稔(由本に)
- 渡邊柚(秋田市) 石川朗(湯沢雄勝)
- 米屋千里(秋田市) 齋藤信行(秋田市)
- 国安和葉(秋田市) 柿下大輔(大館北秋)
- 小野佳裕(秋田市)

七段(二五名)

- 山崎洵(秋田市) 中野秀人(能代山本)
- 田口真也(能代山本) 岩本之正(秋田市)
- 鶴田浩一郎(秋田市) 尾形茂(秋田市)
- 諸井忠道(秋田市) 玉内博美(大館北秋)
- 藤田豊貴(横手市) 佐々木誠(秋田市)
- 大野晃(男潟南秋) 鈴木和人(秋田市)
- 金杏奈(大館北秋) 鈴木紀子(秋田市)
- 渡会満(男潟南秋)

八段(二名)

- 小笠原聡(大館北秋)
- 原田智徳(秋田市)

錬士(十名)

- 村上睦(横手市) 後藤大輝(秋田市)
- 小松謙之助(秋田市) 高山雄(大館北秋)
- 三浦拓美(男潟南秋) 判田亜希子(秋田市)
- 岡田信介(男潟南秋) 池田大助(秋田市)
- 阿部清喜(秋田市) 佐々木準一(秋田市)

教士(十二名)

- 金森康臣(秋田市) 須田恵美子(湯沢雄勝)

山脇清子(湯沢雄勝) 山村浩秋(秋田市)  
 岩井学(秋田市) 秋元かおり(秋田市)  
 岩井川杏子(湯沢雄勝) 鷲谷和(秋田市)  
 土田圭助(秋田市) 越高ひとみ(男湯南秋)  
 石川維範(大曲仙北) 三浦潔(秋田市)  
 範士

居合道・杖道(六段・七段・八段・称号)

鎌田耕平(秋田市)  
 七段  
 沓澤辰雄(大館北秋)  
 錬士(三名)  
 佐藤良広(大曲仙北) 小幡雄平(由本に)  
 浅利成信(鹿角)

大会報告

①第七三回全日本都道府県対抗剣道大会  
 一回戦 秋田 和歌山市  
 四月二十九日

二(四)代―二(四) 和歌山  
 二回戦 秋田 栃木  
 一―〇

三回戦 秋田  
 三(四)―三(五) 〇鹿兒島

②第六四回東北・北海道対抗剣道大会  
 七月六日 青森市

〇男子 北海道軍勝利  
 東北 十一―十四 北海道

〇女子 東北軍勝利  
 東北 三―二 北海道

③第一七回全日本都道府県対抗女子剣道大会  
 七月十三日 東京都

一回戦  
 秋田 〇―四 福岡

④第五二回東北総合スポーツ大会  
 八月二三日大崎市

総合 一位  
 成年男子 二位

成年女子 一位(五勝・二年連続)  
 少年男子 一位(五勝)  
 少年女子 六位  
 ⑤第二〇回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会  
 九月一四日大阪府

〇小学生の部  
 予選リーグ一勝一分け(香川・島根)  
 決勝トーナメント

一回戦 〇―二 大阪府  
 〇中学生の部  
 予選リーグ

一勝一敗(宮崎・愛知)

⑥第七九回国民スポーツ大会  
 九月二七日―一〇月一日 滋賀県

〇成年男子 一回戦 二―二(代)静岡  
 〇成年女子 一回戦 一―二滋賀  
 〇少年男子 一回戦 一―二香川

⑦第七三回全日本剣道選手権大会  
 十一月三日東京都  
 国安和葉

一回戦 ドコ―メ濱崎 鹿兒島  
 二回戦 メ―加納 東京  
 三回戦 一―コ松崎 茨城

⑧第六四回全日本女子剣道選手権大会  
 十一月三日東京都  
 佐藤悠月

一回戦 一―メ柿本 福岡

⑨第五九回全国道場少年剣道大会  
 七月二九日 東京都  
 勝平道場Aチーム 第三位

⑩第四九回東北中学校剣道大会  
 八月六日 岩手県  
 男子団体 秋田北中 第三位

⑪第四九回東北中学校剣道大会  
 八月六日 岩手県  
 男子個人 佐藤航貴 第三位  
 女子個人 石川優美 第三位

⑫第五九回全日本女子学生剣道選手権大会  
 十月五日―六日 東京都  
 佐藤悠月(山形大学) 第二位

⑬第六七回全日本女子学生剣道選手権大会  
 八月一日 愛知県  
 団体 一回戦敗退  
 個人男子 一回戦敗退

⑭第六七回全日本警察剣道権大会  
 十月二十一日 東京都  
 第三部 予選リーグ(山梨・徳島)

⑮第五七回全日本官公庁剣道大会  
 十月二五日 東京都  
 渡邊柚(秋田県庁) 第二位  
 四回戦  
 渡邊美 一―メ村井(警視庁剣道ク)  
 渡邊柚 ド―江口(東京拘置所)  
 準々決勝下メ―瀧原(東京消防庁)  
 準決勝 判定―濱本(笠松刑務所)  
 決勝 一―コ村井(警視庁剣道ク)

女子団体 土崎中 第三位  
 ②第五五回全国中学校剣道大会  
 八月二三日―二五日 宮崎県  
 男子団体 秋田北中 予選リーグ  
 女子団体 土崎中 予選リーグ

③第三七回東北高等学校剣道選抜優勝大会  
 二月八日 福島市  
 男子団体予選、決勝トーナメント  
 女子団体二位 秋田北高

④第三四回全国高等学校選抜剣道大会  
 三月二七―二八日 愛知県  
 男子団体 秋田商業  
 一回戦 二―一 和歌山工業  
 二回戦 一―〇 金沢桜丘  
 三回戦 一―二 福岡大濠  
 女子団体 秋田商業  
 一回戦 〇―二 長崎東

⑤令和七年度東北高等学校剣道選抜選手権大会  
 六月二八日―二九日 郡山市  
 男子団体 一位 明桜高校  
 女子団体 二位 秋田南高

⑥第七二回全国高等学校剣道大会  
 八月八日―十日 広島県  
 男子団体 明桜高校  
 予選リーグ二勝(福島・本庄第一)  
 決勝トーナメント  
 一回戦 〇―一 奈良大付属  
 女子団体 秋田商業  
 予選リーグ(大分舞鶴・小牛田農林)  
 ⑤全国高等学校定時制通信制体育大会剣道大会  
 八月四日 東京都  
 男子個人 佐藤航貴 第三位  
 女子個人 石川優美 第三位

⑦第三四回J.Rグループ剣道大会  
 十一月二十一日 福岡県  
 個人四段以上の部  
 小野直哉 第二位

⑧第五九回全日本女子学生剣道選手権大会  
 十月五日―六日 東京都  
 佐藤悠月(山形大学) 第二位

⑨第六七回全日本警察剣道権大会  
 十月二十一日 東京都  
 第三部 予選リーグ(山梨・徳島)

⑩第五七回全日本官公庁剣道大会  
 十月二五日 東京都  
 渡邊柚(秋田県庁) 第二位  
 四回戦  
 渡邊美 一―メ村井(警視庁剣道ク)  
 渡邊柚 ド―江口(東京拘置所)  
 準々決勝下メ―瀧原(東京消防庁)  
 準決勝 判定―濱本(笠松刑務所)  
 決勝 一―コ村井(警視庁剣道ク)

⑪第六七回全日本女子学生剣道選手権大会  
 八月一日 愛知県  
 団体 一回戦敗退  
 個人男子 一回戦敗退

⑫第六七回全日本警察剣道権大会  
 十月二十一日 東京都  
 第三部 予選リーグ(山梨・徳島)

⑬第五七回全日本官公庁剣道大会  
 十月二五日 東京都  
 渡邊柚(秋田県庁) 第二位  
 四回戦  
 渡邊美 一―メ村井(警視庁剣道ク)  
 渡邊柚 ド―江口(東京拘置所)  
 準々決勝下メ―瀧原(東京消防庁)  
 準決勝 判定―濱本(笠松刑務所)  
 決勝 一―コ村井(警視庁剣道ク)

⑭第六七回全日本警察剣道権大会  
 十月二十一日 東京都  
 第三部 予選リーグ(山梨・徳島)

⑮第五七回全日本官公庁剣道大会  
 十月二五日 東京都  
 渡邊柚(秋田県庁) 第二位  
 四回戦  
 渡邊美 一―メ村井(警視庁剣道ク)  
 渡邊柚 ド―江口(東京拘置所)  
 準々決勝下メ―瀧原(東京消防庁)  
 準決勝 判定―濱本(笠松刑務所)  
 決勝 一―コ村井(警視庁剣道ク)

⑯第六七回全日本警察剣道権大会  
 十月二十一日 東京都  
 第三部 予選リーグ(山梨・徳島)

⑰第五七回全日本官公庁剣道大会  
 十月二五日 東京都  
 渡邊柚(秋田県庁) 第二位  
 四回戦  
 渡邊美 一―メ村井(警視庁剣道ク)  
 渡邊柚 ド―江口(東京拘置所)  
 準々決勝下メ―瀧原(東京消防庁)  
 準決勝 判定―濱本(笠松刑務所)  
 決勝 一―コ村井(警視庁剣道ク)

⑱第六七回全日本警察剣道権大会  
 十月二十一日 東京都  
 第三部 予選リーグ(山梨・徳島)

随筆 秋田への思い



杉並区剣道連盟副会長 竹下 耐

秋田を出てから六十五年になります。秋田商業を卒業し、東レ滋賀に入社しました。三年後に担当していた仕事の組織変更で大阪支店に転勤して十四年勤務。その後更に東京に転勤して、現在在住四十八年になります。

東京に転居した折に、秋商剣道部時代：私達が熊本インターハイで準優勝した時の監督であった佐藤聡明先輩に「東京に転居しました」と連絡しました。そこで先輩から「在京秋田剣友会」の参加を勧められました。

その年の、毎年十一月三日に開催の「全日本剣道大会」終了後に開催される県代表の選手慰労会を兼ねての在京秋田剣友会・総会に初参加。出席者の顔ぶれを見て驚きました。小笠原三郎先生・小笠原宗作先生（三郎先生の娘婿）・桜庭先生・加賀谷誠一先生…そして第一回インターハイ準優勝メンバーの秋商の先輩である小西先輩や、竹刀競技時代で優勝されていた門間先輩、そして加藤浩二先輩（現・範士八段・幸野先輩（現・範士八段）それに秋田高校OBの長尾先輩（その後範士に）や針金先輩（秋田高校OB）など錚々たるメンバーでした。そこに岩谷先生に加藤先生、そして目黒先生も参加されており剣道談義は大花盛り。とても有意義なひと時でした。

その在京秋田剣友会での幹事長（のちに会長）されていた聡明先輩からのひと声が大きな財産となりました。又、後輩ではあ

りますが、お世話係の石代先輩（高十七期卒）は当時、日本武道館の売店経営もしていたので、いろいろと情報を頂き有難い事でした（現在は東京武道館売店経営中です）

話は前後します。秋商で三年、東レ滋賀で三年の毎日が剣道漬けの生活でした。大阪に移り、朝日新聞社道場で水曜の週一回の稽古に変わりました。くるしい稽古の毎日から解放されて楽しい稽古に変わった瞬間でした。道場には師範の越川九段と池田勇治八段が毎回来られました。池田先生は山形出身なので出身地が近いという事でもとても良く面倒をみてもらいました。

稽古後の第二道場はいつも最後まで一緒でした。その時に先生から「手の握り」「手の位置」「足の幅」などについて徹底的に指導を頂きました。その後も、現在に至るまでの大事な教えになっております。

東京に来てから息子に剣道を習わせたくなり、自宅近くのクラブ「西荻尚武会」に入会させ、と同時に私も入会し、少年指導をする事になりました。杉並区剣道連盟に加入し、十五年程前から副会長を努めております。西荻尚武会には、秋田明桜高校出身の佐藤大輔さん（四十二歳）が加入しており上級少年の指導をしております。来年から七段に挑戦する優秀な指導者です。秋田を出てから六十五年。秋田のその時代から受けた恩と、剣道で鍛えられた根性で人生をのり越えて…ここまでできました。ただただ感謝です。

たけした つよし 一九四一年秋田市長  
山王中、秋田商業、東レ滋賀入社  
二〇二〇年剣道有功賞受賞  
剣道教士七段

追悼 伊藤 碩士

昭和16年5月31日生

令和7年10月5日 逝去 享年85歳

秋田県剣道連盟元副会長、秋田県剣道道場連盟元会長

先生の長年にわたるご功績をたたえ謹んで哀悼の意を表します

編集後記

今回の編集にあたり多くの方に寄稿をお願いしたところ、快くお引き受けいただきどうにか発行を迎えることができました。誌面をお借りして感謝を申し上げます。

五月に範士合格、秋に剣道功労賞・有功賞等の全剣連顕彰があり、審査では秋剣連始まって以来の八段二名の合格、また大会では全国道場少年剣道大会での勝平道場の第3位、女子大学選手権の佐藤選手、全日本官公庁大会の渡邊選手の準優勝等々素晴らしい成績を挙げていただき連盟としても大きな喜びに沸いたところでした。

そんな中、当連盟の元副会長で前相談役の伊藤碩士先生の訃報には大変な衝撃を受けました。まだまだ先生からは、指導をいただかなければと思っていた矢先のこと、願い叶わず無念なものになってしまいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

一年を振り返り、本誌の編集に関わってみますと改めて秋剣連の裾野の広さに気づかされ、令和八年はどのような年になるか期待しているところです。

広報委員会からお知らせ

記事掲載内容は、剣窓、秋田県剣道連盟ホームページ、秋田魁新報社、各大会プログラム及び各種団体からの報告を頂き敬称略にて掲載しております。基本的に原文のままとしておりますが万一、誤字、脱字、掲載等の誤りがございましたら、心からお詫び申し上げます。

なお、秋田県剣道連盟ホームページへ掲載されている大会結果に関して、本誌への掲載を省略している大会もございます。ご了承の程お願いを申し上げます。

編集

- 秋田県剣道連盟 広報委員会
- 伊藤忠善 芳谷正人
- 鹿子澤浩美 辻 文彦
- 船越俊幸 糸井一保
- 柏木 亮 筒井洋美
- 岩船志保 工藤勇樹